

## 参加者アンケートまとめ

沖縄本土復帰50周年記念  
子どもの権利条約フォーラム 第30回記念大会

# 子どもの権利条約 フォーラム 2022 in那覇／沖縄

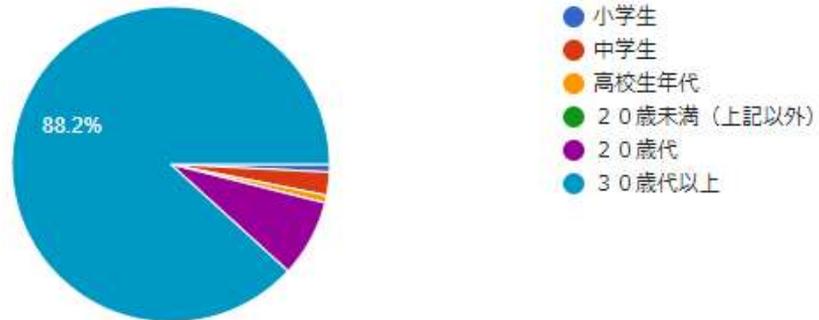
2022年12月10日(土)・12月11日(日)  
会場:沖縄大学(那覇市字国場 555)

## 目次

- ・参加者別の年代と居住地…1P
- ・フォーラムの参加可否と内容…2P
- ・フォーラムへの意見(92名回答)…3P～14P
  - ・子どもの権利について…15P
- ・子どもを中心とした社会づくりについて(108名回答)…16P～28P

## 年齢（年代）について

127 件の回答

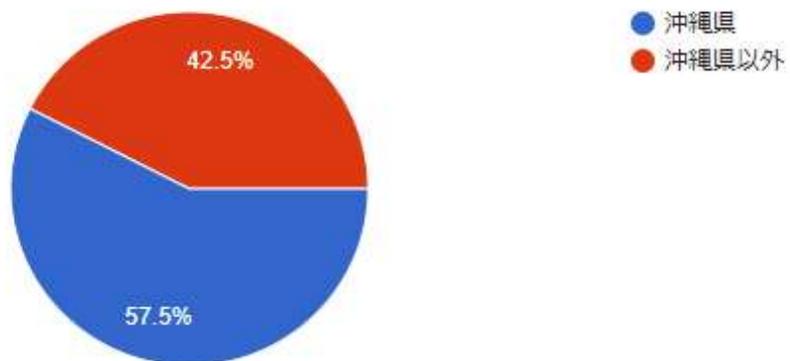


回答 全127名

- ・小学生 1名(0.8%)
- ・中学生 3名(2.4%)
- ・高校生年代 1名(0.8%)
- ・20歳未満 0名(0%)
- ・20歳代 10名(7.9%)
- ・30歳代以上 112名(88.2%)

## お住まいの地域

127 件の回答



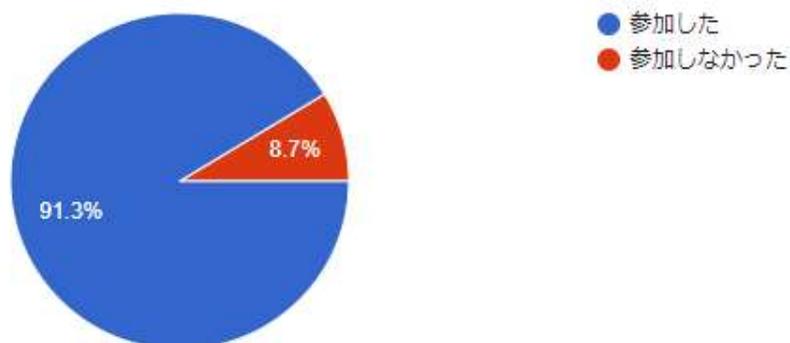
沖縄県在住 73名

沖縄県以外 54名

(内、小学生1名と中学生3名は沖縄県以外、高校生年代の1名は沖縄県在住だった。)

## フォーラムの参加

127 件の回答



参加した 116名

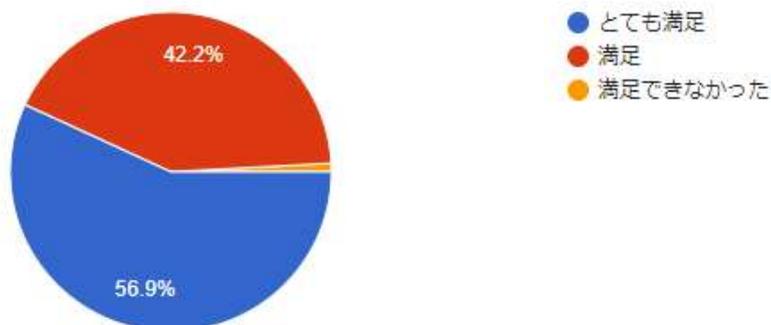
参加しなかった 11名

(内、小学生・中学生・高校生年代の計5名は全員参加した、と回答している。)

Q. フォーラムの内容はどうでしたか？当てはまるものを選択してください。

## フォーラムの内容

116 件の回答



・とても満足 66名

・満足 49名

・満足できなかった 1名

満足できなかったと回答した方の意見内容には「分科会の内容は、良かったが質疑応答の時間が取れなかったのが残念でした」と記入されていた。

また、小学生・中学生・高校生年代からは満足又はとても満足と回答していた。

Q.フォーラムへのご意見（92名の回答）

フォーラムに参加されてどの様なことを感じましたか。率直な感想、お考えをご記入ください。

・運営ありがとうございました！

せっかくオンライン配信していたものは(録画しているように見えたので)、期間や公開範囲限定でも良いからアーカイブ配信があると良いのと思いました。

(同じ時間で迷ったものもあるため)

・以前、別のフォーラムで学生団体と専門家(大人)の対話と称した意見交換の場を設けたときに、対等な意見交換になりづらいということを感じたが、今回のフォーラムでも子どもと大人の対話形式のセッションに同じような印象を感じた。

同じ立ち位置(目線)で話すことの難しさがあるなあと痛感した。

・子どもの権利について、子どもと大人が話しあうことができる場としてよかった。

・オープニングのメインセッションのみのオンライン参加でしたが、短い時間でしたがとても大切に貴重な時間となりました。こども真ん中のとても素敵な機会を沖縄で開催されたことを心よりうれしく思います。全国からたくさんの方が参加があり、分科会に参加された方やフォーラムの facebook や平野裕二さん、浜田進士さん、西野博之さん、林大介さんの SNS からの発信などでいっぱい参加できたような気持ちになりました。オンライン参加でも、1部の参加でもいろいろ発信してくださり、リアル参加したような気持ちになれましたので、ご準備が大変だったと思いますが、ハイブリット開催していただき感謝いたします。ありがとうございました。

・1日目は2歳の子供と一緒に参加したのですが、子供が遊べるスペースがあり丁寧に対応してくださってとても助かりました。

・オンラインで、参加できるところに参加しました。ただ、オフラインとオンラインでの参加が可能な分科会の中には、オフラインのみワークに参加できるなど、オンライン対応がやや弱い分科会があり、オンライン参加者としては、少し残念でした。

・初めて参加しました。子どもの声を聴くという一貫したスタイルに感銘を受けました。次年度も参加したいです。

・県内外の関係者が実行委員や当日参加としてつながる良い機会となったと思います。1度だけ以前の県外で開催されたフォーラムへも参加したことがありますが、良い意味で変わ

らないところと変わったところが感じられ、今後にも続くものと感じられました。オンラインでの参加は、次年度以降の参加の可能性を担保できて良かったと思います。分科会でも新たな情報に触れることができ、貴重な学びの場となりました。子どもの意見を取りあげることについてですが、どうしても意思表示の可否やスキルによって左右されてしまうので、例えば極端に言えば、乳幼児の立場などをどのように拾うのかは検討が求められると思いました。

- ・子ども達の今の姿を知ることができ、将来、子ども達に何が出来るかを沢山の人達と話し合えたこと、そして、一緒に考えてくれる大人達がいることを嬉しく思えました。
- ・時間が足りなかった。
- ・たくさんの方が子どもたちのために集まって考えて、感動した。これをどう発信するか、です。
- ・子どもの権利について、大人にも子どもにももっと普及することの大切さを学ぶことができました。
- ・とても良い取り組み
- ・大人は当たり前でも、子どもたちだけで考え、行動に移す、実行する。ということが出来る子どもがたくさんいた事にびっくりし、感心しました。
- ・子どもたちも一緒に参加しましたが、子どもたち(小中学生)にはちょっと難しい内容でした。もし子どもたちの参加も想定するのであれば、チラシの分科会の説明文に明記したら、よりよいと思いました。
- ・子ども向けのこども家庭庁などの説明があると嬉しいです（小学生）
- ・子どもの居場所センターにボランティアで関わる学生たちの生の声を聞くことができ、今の居場所センターの現状を現場の視点で知ることができ、大変、良かった。
- ・こども基本法がどのようにして成立し、その過程でどんな要素が抜け落ちたのかや、子どもの権利条約に関する考え方、子どもたちや現場で活動されている方の声など、どれもこれもがとても参考になりました。このような機会にオンラインで参加できる体制を整えていただき、ありがとうございました。

- ・分科会の内容は、良かったが質疑応答の時間が取れなかったのが残念でした
- ・私は、現在保育士を目指して短大で勉強をしています。実際の現場で働いている先生方が日々感じていることをふまえて、課題について学びを深めることができました。また、授業では小学校の先生から実際の子どもたちの姿を聞くことができる機会があまり無いので、今回は凄く貴重なお話をきくことが出来たと思います。将来の夢が明確化され、子どもたちがいかに自分らしさを大切に、成長することが出来るか、また、その成長を私たちが支えていかなければいけないということを改めて学ぶことができました。学びの深い 2 日間でした。沖縄で開催してくださりありがとうございました！
- ・内容はとても良かったのですが、講義形式だったので、ユース世代には難しかったようです。
- ・今回、分科会の主催者からフォーラムの事を聞き、初めて参加しました。子どもに関わる多くの方が子どもの権利を大切に様々な活動をされているのだと知りました。子どもの権利条約の事、まだまだ不勉強ですが、これからも少しずつ知って、未来を作る子どもたちが安心して自分らしく生きていく事のできることを私自身していきたいと感じました。ありがとうございました。
- ・子どもの人権について、たくさんの方が興味を持って参加されていることに驚いた。子どもの人権が配慮された、場所、空間を今後実際、どれぐらい作られているのか、実態を知り、参考にしたい。
- ・初めて参加しました。様々な人々が一堂に会し、子どもの権利保障について意見を出し合うことに感動し、子どもの人権の保障について、子どもの人権についての教育についてあらためて、考える濃厚な時間となりました。ありがとうございました。
- ・子どもの権利条約が批准されて久しいのに、まだまだという感じを受けました。子どもについての意識改革が必要ですね
- ・子供の権利について今までちゃんと考えたことがなかったので、行ったかいがあったと思います。学生ボランティアによる発表も分かりやすく、自分が学べなかったこともあったりして、視野を広げることが出来ました。分科会を通して学んだことを今後のボランティア活動等にかかしていきたいです。
- ・分科会 25 に参加しましたが、コタンの話がとても説得力がありました。子どもたちの事情は個別多様性がこれほどまでにあるのかという点と、あまりに重く、ひとりひとりに寄り添った

対応が必要であることが、ひしひしと伝わってきました。このようなケースはどのような施策を講じても生じるのかもしれませんが、未然に防ぐためにも、子ども基本条約、子ども基本法が重要だと感じました。

- ・次回は交通の便が良いところでお願いします。
- ・話を聞く形式だと思って参加していたので、ディスカッション形式で少し驚いた。ただ、色々な年代の人の考えを聞くことが出来て結果的には良かったと思う。他にも聞きたい内容があったが、時間が重なっており、1つにしか参加出来なかったのが残念。
- ・子どもの権利について意識の高い方々が参加されていると感じました。参加した方々がそれぞれ置かれた場所で周りの人々へ周知していく必要があると感じます。今回のフォーラムが閉会したら終わりでは無くて、スタートになれば素敵ですね
- ・医療的ケア児の支援に当たっています。訓練は、室内ではなく戸外で行うことが大切だと学ぶことが出来ました。今後の支援に活かしていきたいです。
- ・若い人たちが、子どもの権利条約を知り、生き生きと学び成長していく姿を目の当たりにしました。「子どもたちは今を生きている」少し前を歩いていると思っていた大人は、実は過去を模索している。子どもの勢いにはかなわない。大人は傍らで遅れて慌ててついていく。子どもは優しい。怒らず焦らせず待っていてくれる。一緒に行こうと声をかけてくれる。共に生きようと声をかけてくれる。子どもの素晴らしいところ・・・自分の経験を語り、自分が良いと思ったことを、「他の人にも伝えてほしい」と発するところ、知りえたことを伝えようとするところ、その為に何が出来るか考え始めるところ。
- ・とても参考になりました
- ・子どもたちを社会で養育しようと意識が共通であった。
- ・分科会のみでの参加でしたが、参加した分科会意外にも興味のある分科会もあり、機会がありましたら また参加したいです。
- ・子どもの声が聞ける機会がたくさんありました。その点はとても素晴らしいと会だと思えます。しかし、子どもの声を聞くだけで、その場で正面から受け止める準備が大人の方に来てないと感じる初日や最終日の全体会のセッションや、子どもが動員させられていると感じる分科会があったのは少し残念でした。

- ・こどもの声を直接聞く事が出来て参加して良かったです！大人も色々な考えがある様にこどもも色々な考えがある。たくさんの子どもの意見をもっと聞きたい！知りたい！と思いました。
- ・たくさんの方々、特に子ども・若者の皆さんのお話を聞いて良かったです。元気をもらえました。
- ・毎年、現地の実行委員会の方々のご尽力により、その土地ならではの特色ある各種分科会やセレモニーが行われることに感謝するばかりです。沖縄ならではの問題、全国共通の問題、子どもを取り巻く環境はさまざまですが、そこに全力で立ち向かい、子どもの声を聴き、それを形にしようとするパワーみなぎるフォーラムが、復帰 50 年の沖縄でできたことを嬉しく思います。実行委員の皆さま、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。
- ・子ども達の柔軟な考え方や、経済や自分を取り巻く現状をどう感じているかを伝えてくれて、とても感動しました。
- ・非常に勉強になり、また感化されました！社会を変えていく行動力を見習いたいと思いました。皆様のような方がいる限り、日本の未来にも希望が持てます！沖縄から日本や世界に向けて、色々発信してください！
- ・プレーパークで遊ぶ子どもが楽しそうだったのが、よかったなあ～🎵
- ・子どもたちが今を真剣に生きている。そんな発言の数々にかんどうしました。そんな子どもたちから学び取ろうとする大人たち。そうこれだ！と思いました。
- ・(川崎市など先駆事例と比べたら)子どもの権利に関する素地がまだ整っていないと想像された沖縄で、ここまで活気ある実りあるフォーラムが開催されたのは、想像を遥かに超えてオンラインでも参加して良かった～と思いました。私は多世代の居場所運営について関心があり、福岡よりオンライン参加しましたが、大人の私ですらフォーラムという、公的なよそ行きの場は傍聴するだけでも緊張するのに 大人数・プログラム化された場に耐えられる子どもというのは、選択肢が多い側の優秀な 子ども達なんだろうな…会議とかフォーラムで土壌を活性化した後は、ハツラツとした声をあげにくい子たちのボソッと漏らす声を、日常の一コマとして受け止める場が、地味に日々コツコツ営まれていく事が大切なんだろうなと思いました。大人や先生が先に幸せにならないと！という意見や、分科会でシェアされた臨場感ある事例など、オンラインながら単なる座学ではなく心動かされる場面が

多々ありました。私もささやかなアクションを重ね、副市長がおっしゃった”ベクトルを太くしていく事に加担していきたいと思いました。

- ・子ども達が声を上げたことに、大人達からリアクションが欲しいと感じます。話しても何もなかった。では、二次被害を産んでしまうと思います。
- ・改めて、医療が必要な子供さんであっても重度の障害がある方でも、可能性は無限だということ。その環境を整えていくことの必要性を強く感じました。
- ・こんなに意識の高い方ばかりが集まるとは思っていなかった。周知方法をもっと工夫すべき。めちゃくちゃ素敵な研修でした！
- ・子ども達が抱える問題を、全ての大人達が「わが事」「社会全体の問題」として考える重要性を改めて感じました。
- ・オンラインでの良さ(全国のこどもと繋がれる)はあってよかったけども、もう少しユニセフがやっている子供の権利条約に対しての深掘ができてなかったと思う。
- ・非常に刺激になりました。  
学生の頃から主体的に活動している方々がいることを知りすごいと感じましたし驚きました。私は沖縄出身ですが、私が学生だった10年前は周りにはこのような活動をしている方はいなかったように思うので、現在は多くのきっかけが身近になっているのかなと感じました。一方で、子ども達の意見や考えは、子どもの視点から見た世界を教えてくれるが、経験値の浅さからなのか、未熟な部分も感じました。なので、大人の知見も組み合わせながら、共により良い世界を作っていく為の「子どもの権利」を考えていく機会やきっかけを多くの場面で作って行けると良いのではないかと考えました。
- ・子どもの関わり方について、新たな発見があり、今後の学童の仕事に少しでも活かせるようにしたい。
- ・熱気を感じ、沖縄と多くの方々とつながっている時間がたいへん、励みになりました。
- ・子どもの権利条約について大人の私たちが知らないと言う事。日本はより良いものを持っているのに生かせていない事。主権者である事を今一度自覚する事から始める必要があるのでは。現在、私達の地域では、子どもの居場所作りに取り組んでいますが、どんな政策にしても子どもを真ん中にして作っていく事が大切であると言う事を地域の方々や行政に

うったえているところです。みんなで繋がり、子どもの権利条約についても学び、子どもの視点に立って、物事を考えていけたらと思います。

- ・こどもたちを通して、沖縄が近く感じました。ともにこどもの権利条例を進めたいと思った。関西ネットワークからの参加でしたが、知事や副市長の声を聴くことができたこと、同じようにこどもの居場所やこどもの権利を考える仲間、特に若い世代の人の参加に心強く、力強く感じました。有難うございました。
- ・去年の川崎に比べて、参加者の年齢が全体的に若かったなと思いました。オープニングセッションも、もんもんとする感じが残って、それはそれでよかったです。子どもの問いかけに対し、MCが大人の方に振っても、ちゃんと質問の意図が伝わっていない感じが、世代間格差そのものと思ったし、やはり若い人たちの感性を大事にしていきたいなと感じました。また、沖縄は子ども支援に関わる大人がたくさんいることとか、子ども自身(中高生)が必要を感じて活動していたり、組織を作っていたり、声を発信していること、そしてそれを大人が聞いて協力して実現できている例を色々教えていただき、刺激をたくさんもらいました。来年の会場である愛知から偵察に来ている人にもあえて、感慨深かったです。準備から、当日の運営まで、実行委員のみなさん、ありがとうございました。大成功だったと思います。
- ・こども達のやりたいことや、意見をダメと言わない保育に感動しました。こどもの権利について考える良い機会になりました。
- ・子ども達が生涯にわたり幸福に生活できるように、実現に向けて行政や地域、教育施設、家庭と協力して子どもの権利を守っていけるような社会であるように取り組みが必要だと感じました。子どもの参加をどのように導入するのか？課題はたくさんあると思いますが、子どもが考えて行動できる自分の意見を言える、それを丁寧に聴く大人と一緒に解決に向けて取り組むことで、子ども達の意欲が高まり子どもの豊かな感性がこの国を支えてくれるのかと思いました。子ども達が幸せに生き自分で考えて行動し生きる力を培っていく基礎を築いていけるように、私たちも適切な言葉かけや対応を意識していく…子どもの人権を考える学びでした。運営ありがとうございました。
- ・子ども達が思いを発言し、その場をつくっている大人にも感動しました。子ども信じて待つ、やらせてみる、人権意識を育てる大切さをまなびました。
- ・大人の意見と子どもたちの意見が聞けるとても貴重な研修会に参加させて頂きほんとはよかったです。子どもたちの権利主張が大人に通らないことが多い社会なので、多くの方に

フォーラムに参加して頂けたら良かったです。本当にありがとうございました。

- ・とても貴重な経験でしたが、学生の私には少し難しく感じる場面もあり、事前に参考資料や勉強しておいた方がよいことなどお伝えいただけたらもっと理解が深まると思いました！沖縄でも開催して下さり本当にありがとうございました。この学びを沢山活かしていきたいです。
- ・オープニングは Web で視聴、分科会は 2 日目の午前と午後に参加しました。クロージングは都合でグループトークのあとに退席しました。参加した 2 つの分科会について。16/「子どもの話を聴く技術」体験セミナーは、対話技術のさわりを学ぶワークショップでしたが、楽しく学べ、翌日から意識して実践しています。22/不登校の体験者が語る～こんな学校あったらいいよね～は、当事者と一緒にグループで話すことができました。ちゅうゆい代表の金城さんが話された、「不登校が増えている(10 年前比で倍増)が、現場はなにも変わっていない」という言葉が印象に残りました。どちらも大変有意義な時間でした。クロージングでは、コロナ禍でたくさんの制限を受けてきたこどもたちがやっと演奏を発表できた姿、素晴らしい演奏を生で鑑賞できて、大変感動しました。プレイパークが 12 時で終わってしまい、分科会に参加した者が参加できなかったのが残念でした。13 時まで開いてくれたら良かったです。あと、分科会の会場案内が分かりにくかったです。受付のロビーに分科会の教室一覧と学内の案内図があると、迷わずスムーズに会場へ行くことができましたと思います。また、同僚で分科会に参加したかった者がいて、締め切りを過ぎてしまって申込ができなかったのですが、当日参加もできたようですね。その辺りのアナウンスができていれば、より多くの参加が見込めたはずです。全体では、大変満足のフォーラムでした。関係者のみなさん、ありがとうございました。
- ・様々な分科会があり(選ぶのは迷いましたが)充実したフォーラムでした。ありがとうございました。
- ・子ども達の意見・発言を聞いたという事が一番の出来事でした。これまで子ども関連のイベントをする際、子ども達の参画がなかった事に反省しました。
- ・プレイパークは子どもがとても楽しんだようで、屋内でのキッズスペースも助かりました。プレイパークは時間が短かったので、午後もう少しやってもらえたらよかったです。参加したい分科会がたくさんあったのですが、時間がかぶって参加できなかったのが残念です。クロージングで参加者とどんな学びがあったか共有し合えたのはよかったです。参加者同士の交流にもなり、今後生かせるとよいなと思いました。今後、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」で沖縄の団体さんともっとつながって活動していけるとよいと思います。

ました。こども家庭庁での施策や、国連子ども権利委員会による子どもの権利条約の日本政府の審査がありますので、沖縄の子どもたちの声も届けられるようになるとよいと思いますので、今後も連携していくにはどんな方法があるかご相談させてもらえたら嬉しいです。

- ・いろいろな方達と意見交流をしたり、いろいろな方達の活動内容等聞けてとてもいい勉強になりました
- ・大人は子どもの声を受け止めているだろうか？子どもだから、とか子どもなのに、とかで子どもの声をしっかりと聴いてこなかったのではないかと改めて思いました。フォーラムでは子どもの声をどう受け止めていくか、子どもの権利を社会に拡げていく一歩になったのではないかと思います。
- ・メインセッションでの子どもたちの堂々とした発表からまず圧倒されました。参加されている方々の熱い思いが、すごいと思えました。分科会でのグループワークのテーマが事前にわかるとよかったと思えました。初日に参加した分科会は時間が短く感じられました。それぞれの場所の課題がたくさん有り、また重いものがあり、さきはながいと感じましたが、みな強い意志で子どもの人権を守る活動をつづけていることがわかりました。二日目は、是非持ち帰り仲間と頑張るって行けるようにしたいと思えました。素晴らしいフォーラムを企画してくださり有難うございました。来年日程調整できればまた参加したです。有難うございました。
- ・全体会の公演ですが、フォーラムのこれまでの失敗や子どもが大人に抗議をする、ボイコットするなど、参加者が優しさを感じられない強い表現が多かったように思いました。また、そのことによってその後意見を言うときに「間違っていたら強く否定されるかもしれない」と参加者の緊張感を煽ってしまっていたので表現や内容が、フォーラムを楽しめるようなものにしたほうがいいと思えました。全体会のグループトークですが、登壇者の数に対して時間が少なく、大人ばかりがお話されていたように感じました。また、並び順が大人対子どもで大人と子どもが共に話し合う体制ではなかったと感じました。話し合い方も「子どもの声に大人が答える」のではなく、子どものことについて大人も子どもも意見をいって、それに対して言いたいことがある人が発言していくほうが、参加者の方は子どもについて当事者からも専門家からも知ることができたと思います。(中学生)
- ・現地で参加したかった！クロージングの時の会場から、次につながる熱を感じました！
- ・活動されている方の実際の話を受けて、良い刺激を受けました。
- ・沖縄は北海道と同じように、誰もが行きたいと思っている地です。それは観光はもちろんで

すが、絵本からも書物からも学習したこと、沖縄を返せと歌ってきたこと、さとうきびの歌などなど昔から今まで、ずっと思いを寄せてきました。実行委員長の挨拶から始まり、クロージングの沖縄県知事にいたるフォーラム中での皆さんの言葉の端々に感動しました。

- ・同じ意識の方との出会いに感謝すると同時に、もっと同じ意識を持った人が増えるといいなと感じました。保育施設の長として願っています。
- ・オンラインで子どもたちと参加させていただきました。ディスカッションや講演など児童館の特性上なかなかずっと参加することができずとぎれとぎれになってしまい残念でした。一部のグループワークには参加でき、各地の方々と交流ができたので良かったと思います。
- ・分科会等はこちらの都合で十分に参加できなかったのですが、前夜祭でのトークセッションと「ゆめパのじかん」を、ドキュメント 72 時間の番組と合わせて楽しみ、温かな気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・こども基本法について深く知りたいと思い参加しました。法律について知る以上に子どもの権利について理解を深めることが大切だと再認識しました。子どもを権利の主体と捉える文化が保育・教育の現場や地域社会に根付くよう自分にできることをやっというと思いました。
- ・子どもたちの意見を聞いてよかったです。もっと聞いてみたいです。
- ・開催に当たり、事務局担当者始めボランティアの方々準備が大変だったことと感謝致します。玉城知事のお姿を身近に初めて拝見し感激いたしました。
- ・私は元不登校児の保護者です。現在、通信制高校に在学中の息子は小学生から 6 年間、不登校でした。義務教育は私達親子にとって、ともしんどい制度でした。渦中にいる時はこんな権利条約が存在する事も知らず、ただただ学校教育に合わせなければという思いで必死でした。今回、その息子は不登校がテーマの分科会へ不登校経験者として参加する事が出来ました。不登校だった自分自身の事を仲間と共に振り返り、お互いの意見を交わす。こんな日が来るとは思いもしませんでした。とても有難い貴重な経験で、本人の自信にもなったと思います。私は不登校とは別の分科会へ参加しましたが、こんなにも辛い思いをしている子供達が今現在も存在しているという事実には愕然として、この歳まで知らなかった事を恥ずかしく思い、知る事の大切さを痛感いたしました。専門的な事は分かりませんが、まずは私達大人が知る事で初めて子供達を守る事が出来るのだと実感した貴重な経験でした。

- ・フォーラム運営にかかわられた方々、たいへんお疲れさまでした。多くの参加者があり、大成功だったと思います。いろんな方々とお話できる時間もあり、とても楽しかったです。今後、このフォーラムを子ども「参加」ではなく、子ども主体の運営をおとながサポートしていくという形になっていけば、いいなと考えていました。みなさんと共に、引き続きかかわっていきたいと思います。どうもありがとうございました。
- ・児童館だけでなく、学童の取り組みなども聞けて良かった。また、子どもが参加していて一緒に話し合いができ、子どもの意見を聞いたので、それだけでも満足できた。
- ・改めて子どもの対応を考え振り返ってみようとおもった。いろんな言葉が聞けて考えさせられた。
- ・ふたつの分科会に参加しましたが、子どもたちと議論をしたり、学生ボランティアの方のお話を聞いたりして、若い世代が積極的に子どもの権利条約を知って広めようと活動していることが素敵だと感じました。
- ・小児科医で今は保育園の園長をしています。このような催しを開催していただき感謝いたします。オープニングと2つの分科会にいずれもオンラインで参加しました。オープニングはあの短い時間ではあのような形で良しとしなければならぬと感じました。当事者の子どもの声を何とかみ取ろうという姿勢は見ることができました。私が参加した分科会はテーマが重くちょっと子どもの参加は難しいと思いました。しかし、今日のタイムスを見ると子ども主体の分科会があったようでその辺ものぞきたかったです。広報について1点。もう少し早い時期に宣伝を始めて欲しかったです。知人を介してフォーラムの存在を知ったのは11月中旬すぎでした。その頃には12月の勤務や行事の予定が決まっていたのでオンラインでしかも部分的な参加しかできませんでした。「こんなことしますよ～」の段階でも宣伝してもらえると予定を入れることができます。直前の宣伝は良かったと思います。あちこちで目にしました。
- ・とても勉強になりました
- ・自分自身を振り返り たくさん反省したり 明日への仕事への、意力が燃えました
- ・今自分が直面している話題について、話を聞けたり参加者と意見を交換することができた。(学校での権利について。子どもの権利が守られる”居場所”とはについて。)
- ・子どもを守る保育者としての保育の質を高めることができ、また保育者だけでなくいろんな

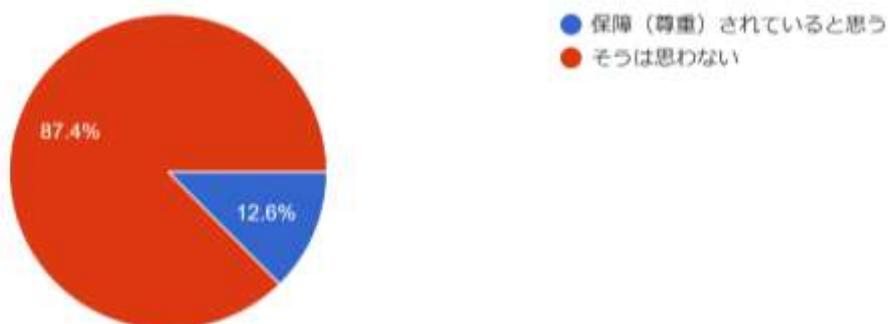
業種・立場の人ととの交流の場であると強く感じた。

- ・一番印象的だったのはボランティア(スタッフ)の多さ。どのようにしてあれだけ集めたのか知りたい気がする。個人的に残念だったこと。当方の都合で最初、最終の全体会に参加できなかったこと、当然のことながら 2 日目の分科会に 2 つしか参加できなかったこと。公開できる当日配布資料の事後公開があれば助かる。(準備段階で、公開できる当日配布資料のデータ提供を依頼しておく) 分科会会場が分かりにくかったこと。A8 主催なので事前にいろいろ調べたけれども一つ分かりにくく、当日は他分科会参加者が間違っって数名来た。ホワイエでたむろできたのは非常に有り難い。
- ・大人が元気で幸せな社会が子どもの権利を保障出来る社会なのだと改めて考えさせられました。
- ・子どもたちのフォーラムへの参加を含め、新たな学びの機会となりました。
- ・こどもの権利について、子供と大人たちが一緒に考えてとても素敵な話し合いになったと思います。こどもの素直な意真聴いてくれて嬉しかったです。(中学生)
- ・今後の活動の学びになりました。
- ・子ども基本法 子ども家庭庁などについて詳しく知ることができて充実した時間をありがとうございました 😊

Q.子どもの権利について

あなたは、今の社会において、子どもの権利が保障(尊重)されていると思いますか？

子どもの権利について  
127件の回答



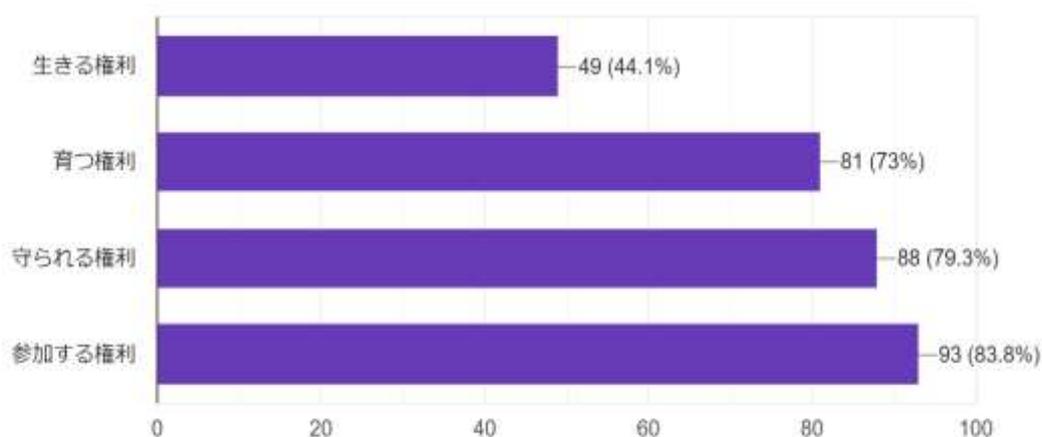
そうは思わない 111名

保障されていると思う 16名

(内、小学生・中学生・高校生年代の計5名は全員保障されていると思う、と回答している。)

Q.前の質問で、「そうは思わない」とお答えした方へ質問です。子どもの権利が保障(尊重)されていないと感じるのは、どの権利だと思いますか？当てはまるものを全て選択して下さい。

子どもの権利の保障(尊重)  
111件の回答



Q.子どもを中心とした社会づくりについて

子どもの権利が保障(尊重)されている社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。方法や政策、仕組みづくりなど、あなたのお考えをご記入ください。

- ・保護者や子どもたちを育てる環境の整備が必要だと思います。大人が幸せでなければ子ども達も幸せになりません。福祉に関わる皆さんの給与や働き方などの改善、心の拠り所を増やす、もっと大人が自分らしく自分の人生を生きていけるような場所、人が必要だと考えます。
- ・大人の都合ではなく、子どもの育ちを優先した仕組みへの変更があると良いなあと思います。個人的には「小1の壁」という言葉が、大人都合の言葉でしかなく、好きではないです。
- ・子どものやりたいことに本気で取り組む体制づくり、子ども同士が安心安全に話せる場や大人が子どもの声を聞く場をつくる必要があります。
- ・こどもにかかるお金がしっかりと無償化され、すべてのこどもが食事も医療も教育も自由も…それから諸々も保障される社会を築くために、こどもの声が届く仕組みを作っていくってほしいと思います。
- ・親や子どものことについて丸ごと相談できる地域の居場所づくりがとても大事だと感じた。現状の行政の対応では保護者が発熱しても子どもを預ける場所がなかったり、生活費に困り助けを求めても生活保護か生活資金の借り入れしか選択肢がない。そのため、困窮状態から脱することができず、子どもの貧困(経済的貧困・経験の貧困)に繋がり、世代間の困窮の連鎖がより悪化してしまう。親と子の地域の居場所ができることでこどもを中心にした社会づくりが実現されていくと思う。
- ・施策立案、実施時に当事者(子ども)の参加がどれだけ保証されるか？ また、子どもの意見が、どれだけ反映されるかについて、いつも注目して、評価していく必要があると思います。(つまり、それは、参加の仕組み十分でなかったり、意見がただただ聞きっぱなしになっていたりした場合、それを指摘して、改善を求めるだけでなく、ちゃんと子どもへのアウトリーチができている、とか、子どもの意見に真正面から取り組んでいるといったことに対して、(それが当たり前ではありますが、)ちゃんと評価することが大事だと考えます。)
- ・切れ目のない支援が本当の支援になることを願います。0 日目死亡が多い現状のなか、予期せぬ妊娠に気づく社会ときめ細やかな個別性のある支援。育ちを保障する環境と教育が大事だと思います。

- ・やはり、子どもの声を丁寧に拾い上げる仕組みがどの程度保障されるかにかかっているか  
と思います。ただし、ごく普通の生活の中で以下に意見がさりげなく拾われているかを検証  
していくことがカギになるものと思います。
- ・乳幼児期の子どもの権利につき、日本国憲法上の位置づけを構築し直す必要がある。
- ・子どもが気軽に通える施設(児童館、公民館)を活用して、フードロスで無料で頂いた食  
材を提供し、1年に2回程度は地域の住民を集めてカレーや焼きそば等を一緒に食事をと  
る機会を作ると同時に各世帯で使わなくなった衣類や玩具を低価格(50 円~100 円)で  
販売する。子ども達が安全に過ごせるよう地域の老人会の方にも協力を依頼する。
- ・教育と医療の格差をなくす事が大切だと感じます。
- ・よく熟知するという事、そして学ぶ事が大切である。
- ・政策として子ども、教育にかかるお金をせめて先進国並みにケチらない。税金って私たちの  
出したお金なのだから。
- ・具体的にどのようなことが、子どもの権利が保障されていないことになるのか、今回のフォー  
ラムのような場や、さまざまな機会に発信していくこと
- ・人権教育をしっかりする。上の言うなりの子を「いい子」としないこと、大人も含めて、そのよ  
うな都合の良い教育はやめること。人として大切なことは徹底する。それは「わずかなこと」  
なはずだと思う。
- ・学校の先生に子どもの権利について学んでほしい。家庭で話しても、学校で守られなけれ  
ば子どもは諦めてしまう。
- ・国の政策を根本的に見直す必要がある
- ・子どもの声を聴く場、姿勢が必要だと思います。発表できる子だけではなく、日常的な関わ  
りから声を拾うことが大切だと考えています。
- ・親、教員等、こどもに関わる大人がまずこどもの権利を学ぶこと

- ・子どもも仕組みづくりに参加する。(小学生)
- ・子どもが育つ環境に携わる人材が不足しているので、人員確保。手当での充実。安全を確保し、子ども達を伸び伸び育てる為には明らかに人手不足で環境が整っているとは言えないと思います。限られた人員と環境では、十分に権利の保証なんて出来ないと思います。
- ・子どもの視点で、常に社会を見ていく態度や意識が必要と思う。子どもにとって、生きづらい社会になっていないか、自分が子どもの頃に返って、社会を見つめ直す事も大切。
- ・「子どもの権利条約」が、学校、地域、家庭などで周知されること、母子手帳や生徒手帳などに明記されること、子どもの権利条約の制定とオンブズマン(コミッショナー制度の導入)、アドボカシーを学ぶ人を増やすなど、必要なこと、できることがたくさんあると思います。
- ・難しいですね でも、私の周りの子供達の笑顔は守って行きたいので何事も良く話し合う事が大切ですね
- ・自分らしさを大切にして、意見表明できる社会
- ・まずは、「子どもの権利」を社会全体が理解すること、そして子供がしっかりと理解し、それを担保する制度(法整備やコミッショナー制度など)が整う事が大切だと思いました。
- ・子どもと大人は特徴や役目が違うだけで、同じ尊厳があることを社会全体で感じられるよう、小さな場所からでも伝えていくことが大切だと感じます。
- ・大人 1 人ひとりのマインドセットが変わること。それに伴い、法律や仕組みのレベルから、市民 1 人ひとりの行動レベルまで、さまざまな変化が起きること。
- ・子どもに、権利があることを、伝える。海外では、子どもの権利条約を、読み上げ、子ども達に伝えていると聞いた。そんなふうに、気づいた人が、子ども達に伝える場をもつことがまず 1 歩。組織、学校などで、できるならば、やってほしい。
- ・地域の小さなコミュニティで子どもの居場所を作り、虐待、ネグレクトの発見、保護者支援に繋げる。地域の子育て家庭に対し訪問活動を行い、地域の子育て家庭を地域で把握する。地域で子どもを育てる必要性について啓蒙的集会を開催する。以上のような活動を実施するための人材・拠点施設を地域で作る。(地域の公民館に併設するなど)

- ・教育が重要、年のいった男性が国を動かしていることが問題、柔軟に対応できる人に国を動かしてもらいたい
- ・子供の権利についての勉強会や、広告による啓発運動を粘り強く行っていくことが大切だと思います。それを行っていくことで家族の会話で子供の権利について話し合われる日がある可能性が高まってくると思います。
- ・子どもの権利を、みんなが知ることが大切だと思います。学校教育の場での周知も必要だと思いますが、マスメディア、とりわけテレビでの特集などを期待します。
- ・大人が従来の既成概念や価値観を払拭する必要があると 考えます。
- ・まずは親に対する教育が必要だと思う。特に経済的に余裕のない家庭には適切な情報を与えることで子どもの未来の選択肢を広げることが出来る。
- ・子どもに関することを決める時に、子どもの意見も丁寧に聞き、政策や仕組みづくりに反映させる。
- ・子どもたち自身が参加できる機会を増やしていくこと。環境づくり。
- ・子どもにもって教えてもらう。何を見て、何を感じているか？何が見えているのか・・・もっと知ろうとすること。大人が勝手に方法を考えたり、仕組みを作ったりするのではなく・・・大人が作るとおとなの都合の良いものが優勢になってしまいます。それでは既に過去。おとな、子どもではない。人と人として一緒に考える。経験値が違うから、おのずと大人と子どもの違いは現れるかもしれない。しかし、それは優劣ではなく、それぞれの違い、特性。だから、人として関わる、一人の人として関わる。多様性を尊重する。
- ・大人も子どもも、等しく子どもの権利を学び、未来に向けて理解ある大人を増やす。
- ・養育者たちの教育
- ・子ども達の明るい未来に繋げる為に、子ども達一人ひとりの特性を理解して、その特性にあった関わり方で関わっていく事が大事だと考えます。
- ・子どもの権利条約を小学校から高校まで連続して学べるよう学習指導要綱に盛り込む

- ・こども運営委員会の発足 そこに担当の大人を配置。行政に作る事が基本となれば。
- ・おとなの意識の転換
- ・子どもの社会参画を促進するために、子どもに関わることは子どもが意見することのできる仕組み「子ども会議」を開催すること、その存在を周知すること、そして、子どもがまとめ上げた意見を吸い上げ、形にするおとなの存在が必要であり、子どもとおとなは対等のパートナーであることを認識できることが大切であると考えます。
- ・どうやったらできるかを共に考える。決して下にみないこと。
- ・こども基本法の遵守義務(国、地方自治体など) こどもの権利条約の遵守義務(国) たとえば、外国語母語話者である子どもが、自分の言語で教育を受けられる環境の整備など。
- ・子どもにもおとなにも子どもの人権を広める。学校でも、子どもの権利を授業に取り入れる。
- ・子どもたちが健やかに自分らしく生きることを保障するためには子どものための予算がもっとも必要と思う。乳幼児の育つ保育園が足りず、生きる権利を奪われた死亡事件が起きている現実に愕然とした。
- ・経済的合理性やピラミッド型の組織運営から、緩やかに脱皮していくことが個を尊重する事に繋がり、ひいては子を尊重する事につながると思います。緩やかな脱皮には、やはり丁寧かつライトな(軽い)対話を積み重ねる事が肝要に思え、個人的には傾聴とか重いミッションを背負った瞬間に対等でない我慢が始まる気がするので、オープン・ダイアログや当事者研究の手法をライトにした対話方法が、日常的に展開されたらどう変わるか関心があります。
- ・子どもが話せる場所、意見や声を 政策や学校運営に提言できる仕組み。財源を子育てに回すこと。根拠や目的のないルールや校則 暴力的指導の見直し。
- ・防衛費でなく、もっと子どもに税金を使うべき！小学校の教育の在り方を抜本的に変えないと日本は終わると思う。昨今、障害児も増える中、その特性を十分に活かせる社会を作っていないと全ての人が生きにくい世の中になる。日本の同調教育や点数だけの学力だけでなく、生きる力を伸ばせる教育、制度が必要。まず、戦闘機が飛び交う空の下で平和を願う沖縄の子どもたちが危険にさらされながら勉強している事実を永田町は知るべき！

・①根本問題は「格差社会・自己責任社会」のしわ寄せが最も脆弱な層の子ども達に集中していることです。「子どもの貧困」というが、これは『失われた 20 年』で悪化拡大した格差のなか大量に生み出されたワーキング・プア家庭(特にシングル・ペアレント家庭)に育つ子ども達の「貧困」とほぼ同義だし、「ヤング・ケアラー問題」も「社会から排除されてまともに治療・回復支援されていない依存症などの精神疾患を抱える親・祖父母がいる家庭で育つ子ども達の困難」がほとんどです。それを忘れて政策を立てても表面的『解決』に終わるでしょう。②公立小学校・中学校・高校の再生が絶対に必要だが、それには正規雇用の教員を大幅増員することと、地域住民の眼と人手が学校に入ることが絶対に必要。インクルーシブ教育を本格的に進めるにも、ばかげた校則を廃止したり、勝利至上主義の部活をやめるにも、人手が必要。③小学校区に 1 つは「子ども食堂」を母体にして「あらゆる年代層/背景の子ども・おとなが集える『第三の居場所』」を作るといいのでは？ みんな、混ぜこぜで。

・私は、妻に子どもを連れ去られました別居親です。こどもと親子断絶されています。それこそ第 9 条のこどもを引き裂かれないように。大事です。こどもの自己肯定感を上げる役目は今の大人達です。私も含めて。

・今回のフォーラムのように子どもと大人が意見を交わす機会を多く作ること ・行政と共に受け身の支援でなく、支援が必要な可能性がある子にアプローチ出来るようになる事(民間団体との協力など) ・自分の人生に目標を持ち、主体的に行動していけるきっかけを提供すること ー 出会い(多様な人との出会い。目標となるような大人との出会い。) ー 体験(旅や遊びを通じた自尊心の育成) ー 自分の人生について考える機会(幸せとは何か。人生の目標。人生設計など。)→これは学校でももっと時間を取るべきかと思います。

・皆が子どもの権利が保障されていない現実社会を認識すること。認識社会作りが第一歩。

・インクルーシブな教育や情報発信、地域での小規模な活動から繋がりを創ることで、子どもの状況の見える化の促進

・全ての子どもがのびのびと自己発揮できる場所が保障されている状態があること。今できることとして、近所のこどもたちに見童館の紹介や乳幼児の親子の子育て支援をしています。子どもに優しい街になるよう、小、中学校の教育に子育てに関する事を考える時間があっても良いのでは？と思います。(妊婦体験等)

・地域、行政、政治が、コミュニティのなかで身近につながりっている状態、支援者団体だけでなく、子ども、地域に、権利保障・促進のメッセージが常に発信されているような状態をつくりたいですね。そう思います。

- ・まずは国民の主権者教育からだと思います。この国の舵取りは私達だということから始めなければいけないのでは。教育から変わらなければ何もかわらない。北欧圏の教育制度を参考にしながら、画一的ではなく、それぞれの地域が主体になった地域の実情に相応しい教育、子育てを考える必要があると思う。
- ・学校教育に人権を取り入れる事。人権の専門家を学校において、学校の在り方を見直す。大人が子どもの人権を守るために大人の人権を取り戻す。公立校以外の多様な学びの場所。保護者がトイレ、短時間の買い物の間、車内の子どもを見守る仕組み(車で寝てしまった幼児など)
- ・守られる権利は、子どもが家庭や学校で危険を感じた時に、何処でも誰にでも相談すれば、ちゃんと守られるという事を信じられるようになってある事が必要。そうでないと誰にも言えない。参加する権利は、いまなお学歴偏重や受験制度に合わせた学校教育が続けられている事から、子どもが本当に自分がしたい事、夢に向けて挑戦する事に対して、大人側の許容力を増進していけるための教育制度の見直しと、雇用社会側の自己変革が必要。
- ・子どもの参加
- ・こどもの声を真摯に聴き、こどもの安心した心の安定化をめざすために、教育、福祉、行政が縦割りではなく、真ん中に子どもたちを置いて、こどもが誰一人取り残されないネットワークがあればと思う。教育システム、社会の構造などすべて、こどもの権利を優先して考える事ができたら・・・と常に思う。
- ・子どもが自分の意志を持てるように、同じ世代とディスカッションできるような力を保育園、幼稚園、学校など誰でも関わるところで学べたらいいなと思います。が、、、文科省が今回のこども家庭庁の傘下に入らないことが、こういうことのブレーキになってしまうのかなと心配しています。学校は、戦後、資本主義、民主主義を伝搬するための大きな役割があり、親の言う事より学校で学ぶことの方が将来のため、未来のために有用で必要だった時代から、大きく変わりました。今では、学校の方が古いです。(トイレの洋式、ウォシュレット、スマホ、ネット環境は家庭の方が先行していて、学校の整備は遅れていて、先生はそういう新しいものから疎い人が多い) 学校の役割を学業だけにしない、、、例えばアメリカのように、ホームルームティーチャーを別途置くとか、熟議、グループディスカッションを学ぶための時間、講師など、そういう分野の職員を置く、ソーシャルワーク的な役割の人も学校専属で、学校職員との横の連携をして、地域に住む家族や、子どもたちをつなげる窓口の役目もできたらいいなと思います。学校にそういう仕組みを入れるのが無理。。。ならば、沖繩

のように各地区で児童館や学童保育がきちんと整備され、放課後の子どもたちの居場所、遊びの保障、意見交換、活動できる拠点をしっかりと国が保障されることや、スタッフ、地域の大人側にはアドボカシーとは何かを学べる機会、子どもの権利を正しく学べる時間と場所を確保することが大事かなと。今の子どもたちがしっかり子どもの権利を学べれば、彼らが大人になったときは、アドボケイトをわかっている大人が増えて、本当に権利が保障された世の中になるのかなー、まとまってなくて、すみません。

- ・子どもが意見を言える居場所を増やす 子ども達が主体となった活動ができるようサポートする大人の育成
- ・まだまだ勉強不足ですが… 子どもを取り巻く省庁を一つにまとめ、平等に育ちを守る、有識者や現場の声をひろい、子どもの環境が改善できるよう柔軟な対応が出来る組織づくり、地域との連携を深めることが大切ではないでしょうか。
- ・こどもの声を聴く、ゆとりのある家庭・教育現場が必要だと思います。
- ・保育園や小学校、中学校、高校と大人と子どもたちが一緒に、安心して過ごせる環境づくりをしていかななくてはいけないと思います。これ以上子どもたちが犠牲になる事件・事故がおこらないように願います。
- ・教育により子ども自身への人権教育が丁寧に理解できることが必要だと思う。
- ・子どもの権利を保障する為には、国民みんなが理解し手を差し伸べて住みやすい社会をつくり、みんなで育てていくものだと思います。
- ・子どもたちに関することを大人だけで決めるのではなく、子どもたちも交えて一緒に考える機会を増やし、子どもたちの意見や考えをもっと大切にしていきたいと思います！
- ・特に学校の先生方に、条約を学びきちんと理解し遵守していただけたら、と思います。
- ・今回フォーラムに参加させていただいて、「子どもの権利を尊重する」ということについて改めて考えました。子どもは半人前ではなく一人の人間であるという位置付けには 100% 同意しますが、大人に比べて経験が少ないのが子どもであり、子どもの意見を尊重すると失敗が増えることも事実だろうと思います。そこで、失敗しないように大人が口を出すことも必要なのかも、などとモヤモヤしたのですが、結局は、失敗を許容する社会をつくるのが今の大人の役割なんだと考えるに至りました。子どもも大人も関係なく、権利や意見が尊重され、その結果失敗してもまたやり直せる社会にしたい。そのためには、学び直しやり

カレント教育のハードルを下げること、教育にかかる費用を下げること、新卒一律採用の廃止、職業差別や年齢差別の廃止など様々な改善が必要ですが、まずは自分の意思で決定する人をちゃんと応援すること、その結果失敗した人を一人にしないことから実践していきたいと思います。

- ・子育て対策事業等への子ども達の参画を促す事。また、先進事例の紹介や取り組みへの啓発を継続して行っていく必要があると思います。
- ・こども基本法ができ、子どもの権利条約の理念が含まれる基本法がやっとできましたが、その実質的な実現のための、こども大綱の制定や国や自治体での役割や機能に関する施策が必要です。また子どもコミッショナーのような、政府とは独立した立場で、子どもの権利の実施状況を監視し勧告できる機関については、こども基本法にも入らなかったもので、必要だと思います。せめて自治体レベルでの子どもオンブズマン制度の実施支援や、子どもアドボケイトのような子どもの意見表明支援を社会的養護の分野に限らず、制度として普及していくことも重要だと思っています。
- ・今回のフォーラムのように大人だけで議論するのではなく、子ども達といろんなことについて議論しあってお互いにプラスになれる社会が必要だと思います
- ・沖縄県に子どもの権利条例を策定し、社会に子どもの権利が浸透していけたらと思います。
- ・ゆとりをもって子どもを守れる親の生活の保証 地域コミュニティ構築の強化 営利主義で無い子どもの施設を作る 公がもっと子どもの人権保障に真摯に取り組む
- ・全国の地方自治体で子どもの声を受け止め政治に反映させる仕組みが必要だと思います。子どもは地域社会で生きているので、まずは国から地域社会にズームして身近で子どもの声が反映されていると子どもが実感できるようになるといいと思います。また、学校教育でも子どもの権利と子ども参加について小学校低学年から教えることが必要だと思います。(中学生)
- ・縦割り行政と学校教育の見直し、かいぜん
- ・子どもへの予算配分。条例づくり。
- ・配慮ある環境の中でインクルーシブ教育が必要だと思います。

- ・私たちは暮らしの中では、親が子を、教師は生徒を尊重して暮らしている。常に一对一の間として向き合っていると思う。身体能力、頭の良さ、何一つとってまかなわないと、子どもの持つ力に目を見張り、圧倒されている。けれども子どもの権利が保障されている社会にはまだまだなっていない。利益が優先され、人権がないがしろにされる政策や制度、人権意識の低すぎるリーダーたちにあきれることが多い。子どもの権利条約は日本国憲法と同じ存在で、空気のように普段は気づかないけれど、いざというときに、子どもたちの、私たちの人権を守ってくれるものとして日本の土壌にも根づいていってほしい。フォーラムの中でも語られていたが、おとなが幸せであることが子どもの幸せにつながる。まずはおとなが主権者としてのふるまいを身に着けていくことが急務であると考えている。
- ・学校や社会での意識の改革。学校教育の中に、子ども権利の授業を入れたり、また、学校の先生もきちんと子どもの権利を理解し、それを実践していくことをマストにする政策があるとよいのではと思います。また、そもそも大人たちが、子ども時代を子どもの権利を尊重されて育っている人が大多数ではないという歴史があり、自分たちがされていなかったことを実践するというのはよほど意識を付けないと難しいんだらうな…とは感じます。
- ・子どもの権利に目を向ける余裕がない大人が多いと感じるので、子どもたちの「まずは大人が幸せでいてほしい」という言葉を真摯に受け止め、大人たちが自分事として身近な環境から社会を良くしようと思えると良いと思います。今回のフォーラムでも様々な活動やそこにいる人たちの思いを知ることができて、とても心強く、どんどん認知を広げていけば、同じく心強く思う人や改めて気づく人も多いと思っています。
- ・子どもの権利についての学びの場を数多く設定する。子どもの声を聞く制度やシステムを作る。
- ・政策をつくったり仕組みをつくったりすると同時に、大人の意識が変わっていく必要があると思います。
- ・「子どもの権利条約」の精神をまず、国民全体が知ること。日本の子どもと同様に海外の特に恵まれない国々の子ども達にも関心を持ち支援をする。
- ・子供自身の想いや声を大切に聴くこと。それを実現するように周りに働きかけるのが大人の役目だと思います。どんな些細な声も聴き逃さない。それを専門家に限らず、1人1人の大人が意識する事で子供達にとって希望に満ちた安心して生きられる世の中になるのだと思いました。

- ・全国の市町村ごとに、子どもも参画して子どもの権利条例を制定し、地域のみんなで子どもを守り育てること。
- ・子どもの声を聴く、これが一番大事だと思います。そのための仕組みを急いでつくる必要があり、生徒会はどの学校にもあるので、ひとつの手段となりえると考えます。プラス、生徒会に参加していない子どもたちから意見を聴く仕組みも必要です。
- ・子どもが自由に話ができる場があればいいと思います。でも子どもは親の目というより友達の目を気にしているところもあるので、横のつながりを作る事から始めなければならないと思います。
- ・子どもの話ができる場があればいいと思います。ただ、子どもは親の目というより友達の目を気にしているところもあるので、横のつながりを作っていく事が大切だと思います。
- ・まずは子どもの話を徹底的に聞く。すぐ出来ること今は出来ないことを話し合う。大人は裏方でごく。
- ・身近で今すぐにでも始められることとしては、大人だけでシンポジウムを開くのではなく、老若男女が一緒になって子どもの権利について対等な立場で議論することが必要だと思います。よって、子どもが発表したり自分の意見を伝えられる機会をたくさん設けることが大事だと思います。子供は大人が思うよりもずっと自分の意見を持っているため、大人が寄り添って真剣に聴く姿勢を示せば、子どもたち自身が子どもの権利を適切に行行使するための手助けができるからです。
- ・親支援。生活にいっぱいいっぱい子どものことを考える余裕がない。・「子どもは群れで育てる」という考え、姿勢を思い返す。その中で必然的に子どもの存在、役割が「一人の人間」として認められていく。・公民館の利用。土・日・平日の夕方も様々な活動ができるよう行政が公的に後押しする。最後に、お金の話になり恐縮ですが、国はもっと子どもにお金をつぎ込んで欲しいです。未来の大切な納税者になるのですから。防衛費の1割を回してもらえば子ども政策は何でもできます。にぬふぁ保育園 冨名腰義裕
- ・大人が全員 1 人残らず、子どもの権利を知っている でも意味を、理解できない部分もある わかりやすく教えてくれたら こどもに対して真面目に 対応できると思いました。
- ・難しいことはわかりませんが どんな環境で育つにしても 全ての子どもが小さい頃から子育てについて学ぶ必要があると思いました

- ・身近な(職場、家庭?、その他…)おとな同士の対話。正しい知識の共有。子ども自身が自分の権利について知る機会があること。
- ・子どもの権利を保障していこうという社会の動きの中、まだまだ貧困による保障の格差や家庭環境によっては自由なく制限される中で過ごす子どもがいるため、保育者の立場として余裕を持ってサポートし充実した保育ができるよう保育士配置指数の改善をいち早くしていただきたい。
- ・4つの権利全てがダメと思うけれど、あえて「守られる」のみチェックをいれた。大人目線、とりわけ上からの教師目線で「守ってやる」。乳児・幼児も一人の人格、ましてや小学生は、中学生は、という視点が全くない。文科省改革、学校改革、教師改革が最重要。
- ・子どもの権利を保障し、尊重しなければならないという意識は、国民の中である程度一致している。ただ、それをしっかり活かした教育が出来ているのだろうかという疑問が残る。中学も高校も、もっと自由に学問を学べるような社会を創っていくべきだと思います。(高校生年代)
- ・大人側が子どもの権利を知る機会がないことは大きな課題
- ・予算増額
- ・こどもを含むすべてのどんな人も人としての権利が保障されているようになること。
- ・大人たちがこどもの権利をたくさん学んで子どもたちを一人の人間とせし、子どもが自分を大切にできると素敵だなと思います。そのためには大人がこどもの意見を聞き続ける必要があると思います。(中学生)
- ・大人ひとりひとりの考え方が変わることが重要だと思います。またこれからの学校の在り方を根本から議論した方が良いと感じています、少子化対策もズレている気がします 防衛予算は増えても子どもの教育にかかる費用はあまり増えないことは特に問題だと思います。